

ヒトプリオン病におけるH-FABP髄液検査の標準化とB-FABPの動態

研究分担者：広島大学大学院生物圏科学研究科 堀内浩幸

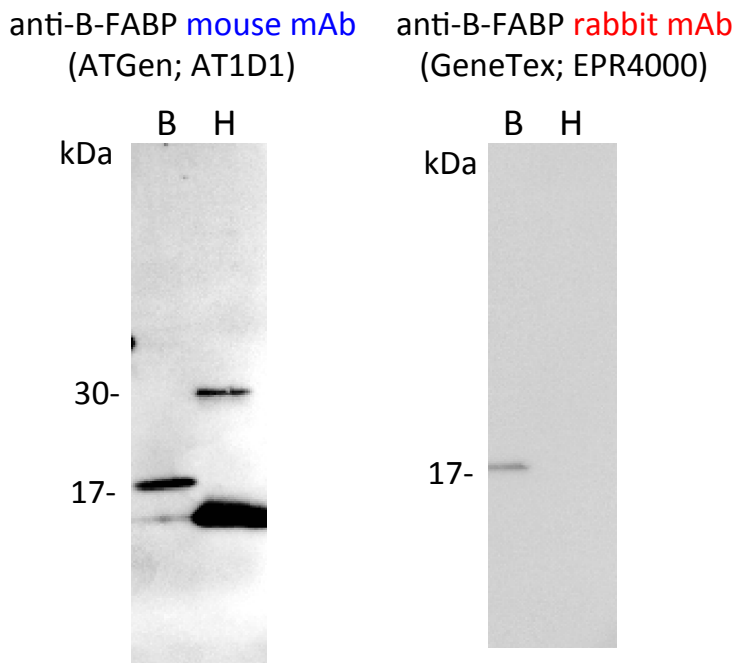


図1. 市販抗体のWB解析による評価

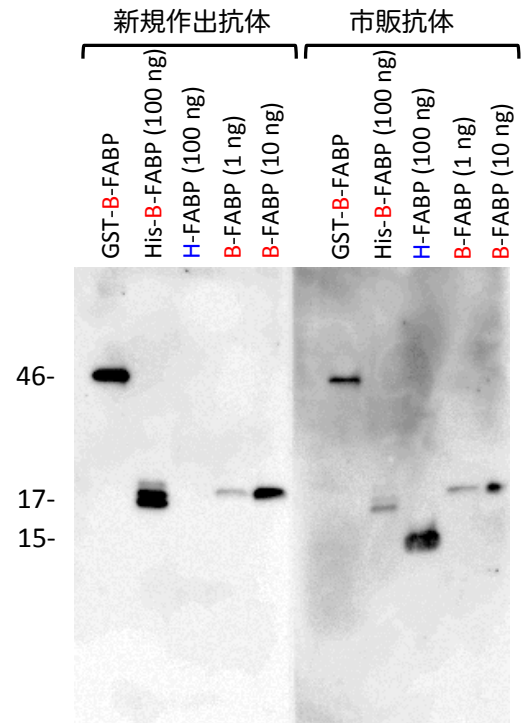


図2. 市販抗体（マウスmAb）と新規作出抗体の比較

解説

図1. 市販のマウス及びウサギモノクローナル抗体(mAb)を用いてウエスタンブロッティング(WB)解析を行い、その有用性を試験した。その結果、マウスmAbはH-FABPと交差反応を示し、ウサギmAbはH-FABPと交差しないものの感度が低く、ELISAに使用できないことがわかった。

図2. B-FABPに対する新規作出抗体と市販のマウスmAbをウエスタンブロッティング解析で比較した。その結果、作出した新規抗B-FABP mAbは、H-FABPと交差せず、また市販のマウスmAbよりも高感度であることがわかった。

今後は作出した抗体を用いて、CJD試料におけるB-FABPの定量を行なう予定である。本研究は佐藤克也・西田教行(長崎大学)との共同研究成果である。